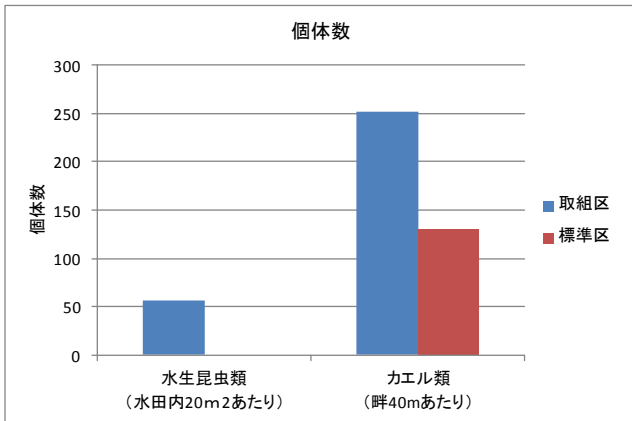
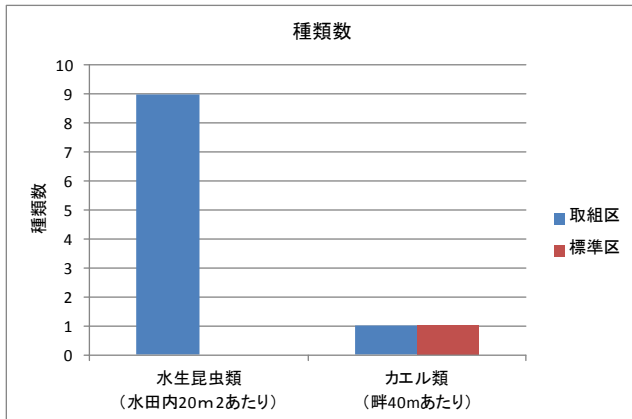


# 生き物緩衝地帯の設置

## 取組区と標準区の比較

調査地点数:1地点	種類数		個体数		多様度指数※	
	取組区	標準区	取組区	標準区	取組区	標準区
水生昆虫類(水田内20m <sup>2</sup> あたり)	9	0	57	0	2.22	0.00
カエル類(畔40mあたり)	1	1	252	130	0.00	0.00

※多様度指数は「種の豊富さ」と「個体数のばらつき」を評価したもので、**数値が大きいほど生き物が豊かでバランスが取れている**ことを意味する。



生き物緩衝地帯の取組区水田



水草等が茂った生き物緩衝地帯の水路

分類群	種名	生き物緩衝地帯	
		取組区	水路
水生昆虫類	アオモンイトトンボ属	4	○
	ギンヤンマ	3	○
	コミズムシ	32	○
	マツモムシ	6	○
	アブ科	3	○
	ヒメゲンゴロウ		○
	ゲンゴロウ科	3	○
	コガシラミズムシ	1	○
	キイロヒラタガムシ	1	
	ガムシ科	4	
	個体数計	57	
種数計	9		
両生類	トノサマガエル	252	○
	個体数計	252	
	種数計	1	

取組区と水路には共通の生き物が生息

生き物緩衝地帯の取組区分において、取組区と標準区を比較すると、水生昆虫類の種類数及び個体数、カエル類の個体数について、取組区のほうが多くなる傾向が認められた。

生き物緩衝地帯の水路では隣接する取組区との共通種が多く、水路から水田へ、またはその逆というように生き物が行き来していることが確認された。